

未来をひらく

竜爪山 九条の会

りゅうそうざん
きゅうじょうのかい

会報 2012年3月発行 通巻23号

発行 / 竜爪山九条の会・事務局

〒420-0812 静岡市葵区古庄3-19-34 五井卓方

TEL・Fax 054-264-4918

E-mail ryusouzan9@plala.or.jp

URL <http://www3.plala.or.jp/ryusouzan9/>

「秘密保全法制」って聞いたことがありますか？

あまり耳にしない言葉ですが、最近弁護士の先生方やマスコミ関係者の中で問題になっている法制です。

ことの発端は、昨年の尖閣諸島沖での中国漁船と海上保安庁巡視船の衝突事件で、それを写したビデオ映像を海上保安官がインターネット上で流したことから、

激怒した政府は、昨年8月に「秘密保全のための法制の在り方に関する有識者会議」なる会議を開催し、そこで取りまとめた報告書を受けて、今年の通常国会に「秘密保全法制に関する法案」を提出すべく準備しています。

この法制は「国の安全」「外

交」「公共の安全および秩序の維持」の各分野にかかわる情報を「特別秘密」として、漏洩した場合に懲役5年以上10年以下

の厳罰を科すというものです。

さらに、事前に「特別秘密」に関与する者（担当する公務員など）の、家族や親族などの身辺調査も行うことを定めることに

なっています。

この「特別秘密」なるものがくせ者で、「特別秘密」の定義が曖昧。何が「特別秘密」なのかを定義するのは政府側に委ねられるので、政府の都合の悪い情報はすべて秘密とされてしまう場合があります。今問題になっている原発事故も、TPPも政



府が「これはまずい」と思ったら「特別秘密」にしてしまえばいいのです。

また「特別秘密」の漏洩を教唆、誘惑、扇動した者も罰することを目指しているとされるから、取材から学術目的の調査に至るまで、公務員から情報を得るさまざまな行為が「犯罪」になってしまうのです。「国に都合の悪いことを取材したり調査したりすることを禁止する」と言っているに等しい法案です。政権与党の議員からも、そのような会議や法制は聞いたこともない、などと意見がでています。

また最近、時の風雲児と持ち上げられている市長さんが（そういえば以前、時の風雲児と持ち上げられ、今は堀の中にいる

IC産業の社長さんもいますが）処分で威嚇しての異常な権力的強制をもって市職員の思想調査をし、問題視されると居直っていることが一部報道で明らかになっています。

日本国憲法は「民主主義」「国際平和主義」「主権在民主義」の三本柱で成り立っています。報道の自由、知る権利及び思想信条の自由は、憲法第三章国民の権利及び義務で謳われている「民主主義」「主権在民主義」の最も重要な柱です。

「そのときすでに遅すぎた」（ナチス抵抗運動指導者のひとりマルティン・ニーメラー）とならないように、目を光らせていきましょう。

今年もやります！

「9条守ろう」新聞意見広告
あなたもご参加下さい。

掲載料
一口
500円

朝日新聞 静岡版 朝刊(全面)
5月3日 憲法記念日(予定)です。

詳細はチラシをご覧ください。

沼津での 講演会の感想

北野 豊（古庄）

11月6日、沼津で「漱石と憲法第九条」と題して講演して来ました。

これは、昨年3月、私が竜爪山九条の会4周年で講演した情報を聞かれた、「ぬまづ9条の会」の神田健夫さんが尽力してくださり、九条の会静岡県東部連絡会の主催でおこなわれたものです。当日は、あいにくの小雨模様の中、30人あまりの方が出席してくださり、笑ったり、うなずいたりしながら、熱心に聴いてくださいました。

北野 豊 きたの ゆたか（著）

『漱石と歩く東京』

写真は一枚もありませんが、文章から景色が見えてきます。

東京神楽坂の書店では、売れ行き好調とのことです。

頒価 500円

問い合わせは北野さんへ
261-8667

「漱石と憲法九条がどう結びつくのか」という思いの方も多かったようですが、「漱石の新たな一面をみた」「もう一度、漱石の作品を読み直してみたい」などといった感想が聞かれ、「今まで、『こころ』という作品は内面にむかってばかり追究され、何か違和感があったが、今日の話は外にむかっていて、何か、目からうろこ、だった」「今度は、一つの作品にしぼって、学習会をしてみたい」と話してくださる方もありました。

東部で九条の会の活動をしている人たちの熱気が伝わって来て、私の方もおおいに励まされました。



表紙が目次になっています。

A4版 / 149ページ / 2011年6月1日発行

第 5 回学習会 報告

11月3日、瀬名南団地集会所で、原発をテーマにした4回目の学習会が行われました。参加者は20名でした。今回は、DVDを見た後、感想を語り合いました。DVDのタイトルは「原爆・原発と憲法9条」。

2011年7月23日に、小出裕章さん（京都大学・原子炉実験所助教）が堅田教会で行った講演録です。このDVDは滋賀県大津市の「堅田九条の会」さんと「アムネスティ日本 大津・坂本グループ」さんの共同制作です。1枚お譲り頂きました。改めて感謝申し上げます。

この80分の講演の中から3点、引用させていただきます。

1 Nuclear

Nuclear weaponsは核兵器

Nuclear power plantは
原子力発電所

Nuclearという単語を、軍事利用の時は「核」と訳し、平和利用の時は「原子力」と

訳す。あたかも違うもののように、我が国では宣伝されてきた。では、

Nuclear developmentという単語はどうか。イランが行えば「核開発」、日本がやる時は「平和利用」と、マスコミでは報道されてきた。

2 1969年 外交政策大綱

「核兵器については、NPTに参加すると否とにかかわらず、当面核兵器は保有しない政策はとるが、核兵器製造の経済的・技術的ポテンシャル（能力）は常に保持すると

ともに、これに対する掣肘を受けないように配慮する。又、核兵器の一部についての政策は国際政治・経済的な利益損失の計算に基づくものであるとの趣旨を国民に啓発する」

掣肘（せいちゅう）
干渉を加えて、思い通りにさせないこと。

3 外務省幹部の談話

「個人としての見解だが、日本の外交力の裏付けとして、核武装の選択の可能性を捨ててしまわない方がいい。保有能力はもつが、当

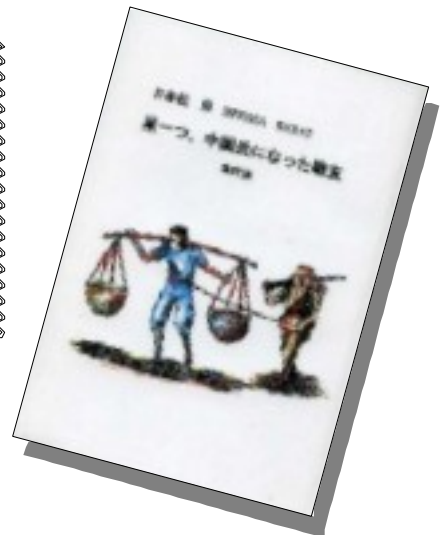
面、政策としては持たない、という形でいく。そのためにも、プルトニウムの蓄積と、ミサイルに転用できるロケット技術は開発しておかなければならない」

従軍記の紹介

日和佐 栄（著）

『星一つ、中国兵になった戦友』

改訂版



12.5×18センチ・123ページ
2011年8月15日 改訂出版

（あとがきより一部引用）

読者にとって残酷と思われるシーンの記述が多くあったと思いますが、...略...これが中国における日本軍の日常的行動パターンだったと言っても過言ではありません。...略...

今翻って私が行動を共にした秋水部隊を偲ぶ時、哀れと思いきそすれ、反感や恨みの気持ちは全くと言って有りません。戦争の罪は戦争を戦う軍隊に在るのではなく、彼等を戦わせた国に在ります。

この冊子は瀬名中央町にお住まいの日和佐 栄さん（86歳・ひわさ さかえ / ペンネーム）が、退職後に書かれたものです。現在、残部はないそうですが、増し刷りも可能とのことです。

読んでみたいという方は、事務局までご連絡下さい。

担当 寺井 261-8362

3.11メモリアルひまわり集会in静岡

2012年3月11日(日)

13時30分～

駿府公園 東御門前広場

この集会は「原発ゼロをめざす3.11全国一斉行動」アピールを受けて、静岡県内各地で行われる行動の一つとして取り組まれます。チラシをご覧ください。



3.11から1年

松永 洋子(瀬名)

福島原発で水素爆発が起き、キケンな放射能が天に散り、海に溶け、地に蓄積した。

当事者である日本人がどう感じ、どう思い、どうしなければいけないと考えたか。

日本の政治がどう動いたか。全世界が注目していると思う。

今の大人が造った原発を、何十年か経ち、今の大人が此の世から消えた後、今の子供に原発の管理をさせ、処理をさせる。

今の子供がこんなキケンな原発を残してほしいと思いますか？

出来ることなら、今、大人の私が死ぬ時、私の棺桶にこの原発を入れて逝きたい。



11.26ひまわり集会in浜岡

4,000人で人間の鎖

昨年の11月26日に、御前崎市佐倉で「11.26ひまわり集会in浜岡」が催されました。浜岡原発の回り(海側を除く)を人間の鎖で取り囲み、原発廃止をアピー

ルするイベントでした。平和委員会のマイクロバスに、本会も費用を助成し、一人1,000円の交通費で参加を呼びかけました。21人の参加があり、お二人に集会の感想を書いていただきました。



ひまわり集会 の感想

川本 宏子（瀬名中央）

午前11時半頃、私達は御前崎市佐倉にある会場に着きました。午後になると遠方からも多くの人達が集ってきて、会場は溢れんばかりでした。開会と同時に、各地の仲間のメッセージ、現状の報告がありました。

福島では放射能に汚染され、不安な日々を過ごしている、特に「子供達の叫び」には胸をうたれ、改めて原発事故の怖さと深刻さを知らされました。また400キロも離れた当地の茶がセシウムに汚染され売れないと、茶農家は訴えていました。次に、長野、伊豆、浜松の仲間からも力強い発言がありました。中で

も浜松から自転車でかけつけた若者が「自分達と生まれてくる子供達を守るために立ち上がった」と聞き、たのもしく思いました。最後に佐々木さんが「津波の来る前に地震があり防潮堤は何の役にも立たない」と、中電に迫りました。当然のことが通らない世の中に不安を感じます。会場は歌声と共に盛り上がり、最後に「浜岡原発の永久停止と廃炉を」宣言しました。

ここに暮らす静岡県民は、今こそ、熱く、あつく、反対の意思表示をしましょう。黙っていても賛成とみなされます、今日は強く思いました。

午後2時過ぎパレードへ出発。建屋も建設中の防潮堤も見えない道路を「いらない、いらない、浜岡原発」と連呼し歩きました。ドーンという花火の音で「人間の鎖」完成。この輪が各地に広がり、大きくなる事を願い家路につきました。

浜岡原発を4,000人で
囲み人間の鎖を完成。
(写真は浜松民商さん
からお借りました。)



ひまわり集会 の感想

矢部 早苗（東瀬名）

私は御前崎が大好きです。

義父母の愛していた御前崎が、いつまでもきれいな海と風の町でいてほしいと切に思います。今も元気で暮らしている、実家の近隣の皆さんのことも好きだから、穏やかで今のままの姿でいてほしいと思います。何かあったら困ります。もうこのまま稼働しないで、廃炉に進んでほしいと願っています。

あの11月26日の「ひまわり集会」には、大勢の他地域の人々が、バスに乗り、駆けつけ、行進をしました。もちろん浜岡の人たちもいらっしゃいましたが、御前崎の大多数の人たちは、いつもと同じようにスーパーに買い物に行ったり、畑仕事をしたりと、私たちの行進を見ても集会があるぐらいの感覚だったのではないのでしょうか。

原子力発電についての知識があまりにもない！知らない！と

いうこと。私たちの行進を見かけた人たちが、拍手してくれる、加わる、くらいになってくれたら・・・

私は原子力に嫌悪感を持っていても、知識もないし、事故隠しとか、事故とかのニュースも、毎日の生活の中で、頭の上を通り過ぎていきました。知識がないということ、声をださないということがネックだったと思います。

「ひまわり集会」に参加して、いろいろ思うことはありましたが、たったひとつしかない地球を、小さな子供たちやたくさんの動植物に、きれいなまま残してあげなきゃと、そんな思いです。なんだかとりとめもなく、まとまりもなく、「結局なんなんだ！」ですが、ひとつひとつ、積み重ねて反対していきたいと思います。



「ゲンパツいらない！」
「ゲンパツとめて！」
そのいのゼッケンをつけた私達グループ

私の静岡空襲 体験記

黒田 恭司（古庄）

色白で長身の美青年は、十三歳の私の足下で仰向けにこと切れていた。カーキ色の飛行服に救命胴衣を胸に下げ、12.7ミリの重機関銃の弾帯を体に巻き付けたままで、射手と思われる彼の鼻・口・目・耳に大きな蠅が黒山に群がっていた。私を含め取り囲んだ市民十数人は、目をそむけたり、ののしったりはせず、恨みも憐れみも見せなかった。

安倍川の河川敷には、先刻の空襲で火災と喧噪の生き地獄の市街地が嘘のような静寂な時間が流れていた。

「やっさん、空襲始まったよ。逃げるのはあっち。」

東京で焼け出され、当時の緑町の我が家の近くに暮らしていた三歳年上のいとこの純ちゃんが、道を隔てた目の前の六万坪の練兵場の草っ原とは反対の東方向へ私達をリードした理由は、

その時点では誰にもわからなかった。

「あっ、B-29。墜ちてく。」と、純ちゃんの声。

尾部をもぎ取られた一機が、地上の火災を映してオレンジ色に光り、ダッチロールしながら西空の視界から消えるのに5～6秒だった。

夏至の早い夜明け、敵機の姿は消え、やっさんち純ちゃんち共に焼け残ってホッ。登校のため横断した練兵場は、ここかしこ市民の死体。私達が逃走中ふり返ったこの方向に落下した多数の焼夷弾が、一面に油脂の無数の火の玉を乱躍させているのを見た。純ちゃんのリードは的確だった。そして、みんな命を拾ったのだった。

乱躍(らんやく)は、黒田さんの造語です。

静岡空襲

1945年6月20日。

静岡市を空襲した214爆撃団。B-29、123機中の2機が空中接触して23名墜死。

浜岡原発訴訟の 原告になって

寺井 久美子（瀬名）

セシウムもベクレルもちんぷんかんぷんだった私。原発に対していかに無知、無関心であったかを思い知らされ、「知らなかった」ではすまされない、そう思いました。

キケン極まりない核のゴミを何万年も管理し続けなくてはならない原発。被曝労働を引き受ける人がいて成り立っていた発電システム。原発の事を知れば知るほど、地球には「あってはならないもの」と確信するようになりました。

日本は被爆国から、核の加害国になってしまったのです。

原発を止めるために、何かしなくてはと思い、できそうな事から始めました。

まず、「脱原発」の署名をしました。次に、三上湖西市長に応援メールを送りました。家の壁に「脱原発ポスター」を貼りました。「菜の花パレード」に

行きました。生まれて初めてのデモ体験です。署名集めもちょっぴりしました（やや、苦手）。

そして6月、新聞で浜岡原発訴訟の市民原告公募の記事を読み、迷わず原告になろうと決めました。弁護士さんの面談を受けました。折「勇気がありますね」と言われ、「エッ、そうなの？」とびっくりしました。「原告になること」も、私にしてみれば、できそうな事だったからです。とは言っても、私にできることは、ほぼ2カ月に一度のペースで開かれる審理の日（口頭弁論期日）に静岡地裁へ出向く事だけです。

さいごに「原発推進派」の方々にお願ひがあります。

原発は、せめて、放射線の無毒化技術と被ばく治療方法が確立されてからやってください。それまでは、原発やめましょう。



5周年のつどい

記念講演

憲法9条・25条を守る立場から 「被ばくとつき合う」

講師 **聞間 元** ききま はじめ 医師

3.11後、ずっと後々の世代まで、私たちは被ばくを受け入れて暮らさざるをえません。長年、被ばく医療に取り組んでこられた聞間先生に、憲法を守る立場から、被ばくについてお話しをお聞きします。



聞間 元 医師
生協きたはま診療所所長

4月1日(日)13:30~15:40

西奈生涯学習センター 2階 第一会議室

参加費
300円

講演の後、総会を行います。
「つどい」終了後、会場を移して懇親会になります。

懇親会

時間 16:00 ~ 18:00

会場 ひがししも
東下公民館

会費 **1,000円**

切日 **3月25日**

懇親会のみ参加、差し入れ、大歓迎です。お誘いあわせてお越し下さい。準備の都合上、締め切り日までに申し込みをお願いします。

リンク西奈
西奈生涯学習
センター

申し込み先

三輪 / 261-9645
小川 / 261-5688
寺井 / 261-8362
奥山 / 208-6484

ブロック塀に
東下公民館入り口の
看板があります。

東下公民館
リンク西奈より
徒歩4分